



2026年4月24日

各位

上場会社名 レンゴー株式会社  
代表者 代表取締役社長兼COO 川本 洋祐  
(コード: 3941、東証プライム)  
問合せ先責任者 常務執行役員(上席) 経本部長 山崎 宏信  
(TEL. 06-6223-2371)

## 減損損失(連結)の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年3月期(2025年4月1日~2026年3月31日)において、下記のとおり減損損失(連結)を計上することとなりました。また、2025年5月9日に公表いたしました2026年3月期通期連結業績予想を修正することといたしましたので、下記の通り併せてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 減損損失(連結)の計上について

当社は、コア事業のひとつである海外事業を強化し、より一層の業容拡大、業績向上につなげていくべく、ドイツに所在するトライコー・パッケージング&ロジスティクス社(以下、トライコー社)を2019年8月に子会社化いたしました。

しかしながら、近年の欧州における自動車産業の低迷の影響等により欧州での重量物段ボール事業の採算が悪化したことから、トライコー社の業績は当初計画を下回って推移しております。

このような状況を踏まえ、当社はトライコー社の事業計画の見直しを行い、減損テストを実施いたしました。その結果、トライコー社に係る回収可能価額が帳簿価額を大幅に下回ることが判明したため、同社に関する有形固定資産、のれんおよび無形固定資産に関する減損損失(連結)18,910百万円を特別損失に計上することとなりました。

今後の見通しにつきましては、欧州の自動車関連産業は先行きが不透明な状況が続いており、短期的な回復は難しいものの、同産業の落ち込みを埋めるべく、化学品など他の産業への供給を拡大するため、営業体制を強化いたしました。

昨年7月にはドイツ北西部ノルライン＝ヴェストファーレン州に新工場が稼働しましたが、2026年度はより安定してドイツや他の欧州諸国のグループ会社へ重量物段ボールを供給することが可能となる見込みであり、ドイツ南部バイエルン州の工場と合わせて最適な物流ネットワークを構築いたします。また、不採算の拠点を他の拠点に統合することで固定費の削減を計画しております。

トライコー社の買収時点と現在では外部環境が異なっておりますが、顧客基盤の強化や生産

性の向上により、業績の回復に努め、中・長期的には計画を達成できると考えております。同社は当社グループにおいて重要な子会社であり、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

## 2. 2026年3月期通期連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

### （1）修正の内容

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,005,000	40,000	40,000	24,000	96. 85
今回発表予想(B)	1,005,000	37,000	37,000	21,000	84. 66
増減額(B - A)	0	△3,000	△3,000	△3,000	
増減率(%)	0.0	△7.5	△7.5	△12.5	
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	993,251	37,408	39,178	28,979	116. 94

※年間配当予想につきましては、直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

### （2）修正の理由

売上高は概ね当初予想に近い水準となる見込みですが、営業利益、経常利益につきましては、欧州での重量物段ボール事業の採算が悪化したこと等により前回予想値を下回る見込みであります。親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、特別利益として2025年11月6日に開示いたしました当社湘南工場の敷地の一部収用に伴う受取補償金148億円および第3四半期から第4四半期にかけて政策保有株式を売却したことによる投資有価証券売却益117億円を計上するものの、特別損失として、上述1.のトライコー社に関する有形固定資産、のれんおよび無形固定資産に関する減損損失189億円、湘南工場敷地の収用に起因する工場移転費用引当金繰入額24億円を計上すること等により、前回予想値を下回る見込みであります。

### （注）

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後種々の要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上